２０２１年度（令和３年度）
事業報告書

社会福祉法人　豊　友　会

２０２１年度(令和３年度)事業報告

概　要

２０２１年度は、東京都での新園開園に向けた取り組みを重点に、各エリア、各施設の課題を抽出し、改善に向けた取り組みを行ってきた。東京都では２０２２年度４月に２園同時に開園ということで、従来以上に密な連携を行いつつ、本格的な東京事務所を設置し、対応にあたった。

法人本部、各エリア、各施設の役割・機能・業務を見直し、２０２２年度には組織改革を試行し、２０２３年度には本格的な組織改革・編成を行い、各エリアの実態に応じた対応ができる体制を整えることとした。

既存園においては、日常保育・教育、行事等のあり方についても検討を加え、工夫を凝らしながら、PDCA サイクルの徹底を行い、改善に努めた。

新型コロナについても、感染予防に努めつつ、after コロナ、with コロナに向けた取り組みを実施してきた。まん延防止等特別措置の発出などへの対応と社会を取り巻く環境を見極めつつ、園児や職員の安全安心を第一に取り組みを行った。

研修については、昨年度に引き続き、対面・集合型の研修は、中止若しくは延期されるものが多くなる中で、オンライン研修を積極的に活用しての積極的に取り組んだ。年度末には、一部ではあるが対面型の研修も増加してきている。

職員処遇に関しては、処遇改善に向けた臨時交付金が実施されるなど、国の諸施策がある一方で、地域や設置施設種毎で差異が顕在化しつつある。法人としては、できる限りの対応をしていく体制を整備していくこととしたい。

採用状況については、東京都新園開園に向けて３０名程度の保育士・看護師・栄養士募集を行い、概ね予定通りの採用となった。採用と共に、既存園においては、保育士の退職について、差が出てきており、福利厚生、研修等の充実を行い、やりがいと働き甲斐のある職場創造が急務となってきている。

１　業務報告

昨年度に引き続き、コロナ禍における感染防止対策を施し、玄関での体温計設置や消毒液の拡充、空気清浄器を設置など地域によって、差異はあるものの完全安心を第一に取り組みを行いつつ、各施設において、保育教育の充実を図り、大きな問題もなく１年を過ごすことが出来た。

各エリアでの特記事項について、下記する。

豊岡エリアでは、チャイルドハウス保育園の隣地を確保し、駐車場対策へ取り組みと共に、将来における施設の活用について、検討を開始した。

神戸エリアでは、各施設とも順調な業務経営を行う一方で、今後の取り組みについて、本格的な検討をはじめ、２０２２年度は具体化していくこととしたい。

首都圏エリアでは、東京都新園への取り組みと共に、業務の見直しを行い、従来の東京事務所機能から強化し、本格的な取り組みを行った。

本部においては、ネットワークシステムの増強に努めているところであるが、年度末には、不正アクセス事案が発生し、改善と共に、予防のための対応を行い、職員研修を継続的に行うこととした。

本部と施設の機能分担を整理しつつ、本部、エリア、施設の役割・機能等業務の抜本的な取り組みを行う予定である。

１－１　社会福祉事業

保育園・こども園事業については、概ね順調に推移しているものの、園によっては、収支バランスが悪化しているところもあり、今後改善を行なっていきたい。

豊岡エリアでは、チャイルドハウスこども園では、定員１４５名に対して、平均２０２名の在籍があり、１３９％の定員超過となっており、２０２１年４月のこども園移行やバンビーノハウス保育園を開園したが、改善に結びつかず、豊岡市等行政との協議も必要となってきている。病児病後児保育事業については、前年度と同様にコロナ対策を重視したものの２９２名と前年度より利用数が増え、一時保育事業は大幅に減少している。また、子育て支援事業については、抜本的な見直しをしつつ、「わくわくの森」などの利用者は一定確保された。

神戸エリアでは、村雨こども園なぎさ分園の開園により、園児数は平均１４６．７名であった。松風児童館においては、分館も含めて、学童クラブ利用者数が当初１４３名であったが、年度末には、１００名となり、環境及び指導内容についても検証を行い、改善に結びつけたい。年間利用者数については、２１，４９７名で前年から約１９００名増加しており、おやこふらっとひろば須磨の利用者は、９５２０名を数え、全体としては、計で２１００名程度の増加となっている。

首都圏エリアでは、諏訪ひかり保育園の園児数が平均９０名で、１名減少となり、病児病後児保育室についても、前年対比４５％増の１６名の利用となっている。

１－２　公益事業

放課後児童クラブキッズガーデンにおいては、児童数も安定し、平均５９名となっているが、補助金がないことから、行政への働きかけなど、今後一層の取り組みが必要となってきている。

さいたま保育園については、定員充足率の関係から定員を１００名から８７名に変更した。

つくしんぼ保育所においては、再契約初年度であるが、職員業務の見直しなど課題解決に向けた取り組みを行っていくこととしたい。

１－３　収益事業

園庭用に買収した敷地内にある３階建てマンション及び駐車場の賃貸業を開始しているが、修繕費用等を計上しているが、現在満室状況であり、順調に推移している。

１－４　第三者評価

２０１８年度に諏訪ひかり保育園で受審して以来、各施設で実施できていない状況を鑑み、早急に対応して、順次受審して、改善に努めていきたい。

１－５　研修活動

対面・集合型の研修に変わり、オンライン研修を活用して取り組みを行なったがまだ、十分な対応とは言えない。

内容的には、キャリアパスに関する事柄や保育教育の専門性を高める研修を行う一方で、産業医によるメンタルヘルスや豊岡地区では、公認心理士によるカウンセリングを開始した。

弁護士によるコンプライアンス研修を行い、情報提供を行うなどの取り組みを行った。

個別計画の遂行については、出来る限り積極的な取り組みを行っているが、受講定員が少なく、選漏れもあることから、早めの対応を心掛けたい。

職員への社会人マナー、美容や健康に関する研修を企画したが、対面が難しく、中止もしくは延期となっており、２０２２年度からのオンラインを含めて、積極的に取り組みたい。

法人内では、ネットワーク研修を主に、個人情報保護などを重視した研修を行い、２０２２年度より一層継続した研修を行っていくこととした。

１－６　法人運営

法人経営については、理事会を８回、評議員会を２回開催し、毎月法人事務局会議を開催し、情報共有、意思決定の迅速化を図る一方で、施設長会議等の会議開催が出来ず、今後改善に努めていきたい。

東京事務所においても、企画会議を定例化し、情報共有に努めた。

法人役職員数が、２７３人となり、ガバナンスやコンプライアンスの強化はもとより、コミュニケーションの一層の充実が重要となってきている。

２　経営報告と今後の課題

法人全体としての事業活動収入は、１３億９，７７６万円（前年度１３億６，５４２万円）、事業活動支出は１３億８，２００万円（前年度１２億４，４８０万円）、事業活動収支は１，５７５万円（前年度１億２，０６２万円）、事業活動外収支を加味した経常収支は、１，５２２万円（前年度１億１，５８０万円）の経常収支プラスとなり、前年度対比収入は減少した。

決算分析としては、職員数が増加し、人件費が増加すると共に、コロナ対策などの事務管理経費、保育環境整備支出が増加している。今後も新規事業への対応と共に経費節減についても改善を施していくこととしたい。

３　社会福祉事業

３－１　チャイルドハウスこども園

（１）保育・運営

今年度から、「幼保連携型認定こども園」に移行し、バンビーノハウス保育園が隣接地に開園し、新体制で２０２１年度がスタートした。１号認定児１５名・２、３号認定児１３０名、計１４５名の定員数を大きく上回る園児数の受け入れ状態の中、２０２０年度より取り組んでいる「こども達の主体性」を引き続き大切にし、教育・保育の充実を図った。又、新型コロナウイルス感染症対策とし、衛生管理には十分に配慮し、日々、拡大防止に努めた。２月頃に但馬での感染者が増加し、園内でも初めて感染者が出たが、関係機関との連携を図りながら対応することが出来た。

「こども達の主体性」を大切に、遊びの選択肢を多くし、職員は遊びの中でのこども達の声をくみ取りながら、更なる遊びの展開が広がるよう、教育・保育に努めた。毎年、園内の同じ場所に帰ってきて巣を作るツバメの観察から出来た「ツバメ新聞」。園の周辺を通るたい焼きの移動販売車から発展した「夏まつりごっこ」。ハロウィンの仮装作りから開催された「チャイルドコレクション」等々。こどもの興味関心から、５歳児を中心に大きな遊びへと発展し、異年齢で楽しむことが出来た。

コロナ禍で、保護者が園内に来て頂く事が難しい中、日常のこどもの育ちをどのように保護者に伝え、共有するか苦慮した。そこで、オンラインでの保護者懇談会・こども達の成長を動画にてまとめ配信を実施した。保護者支援が必要な家庭（虐待・DV・育児能力不足）の問題案件が数件あり、専門機関との連携を密にとった。又、専門機関への報告義務を適切に努めた。

地域との連携・交流に加えて、入職希望者の増加戦略として、ホームページの内容・ブログの更新、インスタグラムでの情報発信に力を入れた。数名の園見学や４名の実習生の受け入れを行い、２０２２年度の入職に繋がった。

長期にわたり、問題となっていた保護者送迎用の駐車場について、西側隣接地を買収。現在営業中の店舗の駐車場を、時間限定で利用することで、市道への渋滞問題が回避された。

日常にバンビーノハウス保育園との連携が始まり、職員間の情報共有の必要性が高くなった。園長・主幹・リーダーが集まる「主幹リーダー会議」を中心に、各歳児毎の会議を随時実施した。又、必要に応じてタイムリーに緊急を要する会議（事故や保護者問題）を行い、迅速な職員間での情報共有や共通理解を行った。

2021 年度　チャイルドハウスこども園園児人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合　計
4 月	2	6	10	61	66	58	203
5 月	2	6	10	61	66	58	203

6 月	2	6	11	61	66	58	204
7 月	2	6	11	61	66	58	204
8 月	2	6	11	59	66	57	201
9 月	2	6	11	59	66	57	201
10 月	3	6	12	59	66	57	203
11 月	4	6	12	58	66	57	203
12 月	4	6	12	58	66	57	203
1 月	4	6	12	58	66	57	203
2 月	4	6	12	58	66	57	203
3 月	4	6	12	58	66	57	203
平均（人）	3	6	11	59	66	57	

（２）子育て支援事業

こども園の移行に伴い、子育て支援センター「チャイルドハウス」として、毎週火～金・９：３０～１３：００で、部屋解放を開始し、来園時の検温や手洗い・手指消毒を徹底した。毎水曜日に関しては、在宅の３歳以上児が楽しめるよう、幼児向けの遊びを提供した。コロナ状況により、定期的な来園は少なく、当初に計画を立てていた「地域コニュニティー」も実施できなかった。

毎土曜日の園庭解放は、屋外ということもあり、実施することが出来た。

2021 年度　実績報告

	来室数(組)		来室数(組)
4 月	0	１０月	6
5 月	0	１１月	3
6 月	5	１２月	0
7 月	9	1 月	2
8 月	1	2 月	0
9 月	0	3 月	0
合計	１５	合計	１１
平均		2	

（３）病児病後児センター「チャイルドケアセンター」

コロナ前は、毎年４００名以上の利用があった。２０２０年度は、コロナ感染症拡大の為、利用者は激減。

今年度２０２１年度は、前年度２０２０年度に比べ、利用者数は増えてきているものの２９２名であった。利用者の受け入れ体制のあり方を検討した。利用人数の制限（１部屋１名の利用)、予約時のきめ細かな聞き取り、ケアセンター内の消毒等、感染予防の徹底を行った。

豊岡市役所や地域の医療機関と連携をとりながら、新型コロナウイルス感染

症の流行地域、校区の情報収集を行った。引き続き、病児、病後児の子どもたちがゆっくり過ごせるよう、保育環境の整備、保育看護の充実を図っていった。

2021 年度　チャイルドケアセンター利用人数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
人数	15	23	31	24	45	27
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	16	18	33	18	24	18
合計	292 名					

（４）一時預かり事業

年間利用者がのべ１４９名であった。こども園に移行し、３～５歳児の利用は減少した。０～２歳児に関しては、リピーター利用者の私的理由による利用が多く、日によっては、人数制限を行う事もあった。

今後も在宅支援、地域貢献の一つとして行っていきたい。

2021 年度　チャイルドハウスこども園一時保育実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合　計
4 月	1	1	2				4
5 月		2	7	3			12
6 月		2	8	2			13
7 月	1	1	10	2			14
8 月		1	2	6			9
9 月		1	12	11			24
10 月			10	11			21
11 月			12	6			18
12 月			13				13
1 月			9				9
2 月			4				4
3 月	1		7				8
合計（人）	3	8	97	41	0	0	

（５）職員研修

保育の質の向上の為、「年間園内研修計画」を立てた。その中でも、「事例研修」に力を入れた。ヒヤリハット・事故発生の事案を振り返り、未然に防ぐ

為の環境の工夫、改善に努めた。

コロナ感染拡大防止の為、オンライン研修を受講することが多かった。いつも遠方での研修に参加しにくい職員も参加しやすい環境になった。よって、多くの職員で研修を受講することにより、同じテーマで活発にディスカッションすることができ、共通理解を深めることが出来た。

３－２　テラスハウス保育園

（１）　保育・運営

コロナ禍の中での新年度スタートとなる。昨年度から引き続き、園内・玩具等の消毒・衛生管理の徹底、毎日の健康観察等、細心の注意を払いながら通常保育を行った。８月頃より、但馬地域でも感染者が増加傾向となるが、園内で拡大することはなかった。拡大防止の為、土曜の５園合同保育は、９月よりテラスハウス保育園単独で行うこととした。行事については、社会情勢を見ながら、その都度検討し、夏祭りや保育参加等やむなく中止とした。それに代わるものとして、夏祭りごっこや運動遊びごっこ等を園児と職員のみで行い、その様子や日々の保育の様子を保護者にも共有できるよう見逃しライブ配信を行った。保護者同士の関係も希薄になっているところから、ズームで保護者懇談会をも開催した。年度末には、1 年間の子どもの育ちの集大成としての動画を作成し配信を行った。

保護者支援が必要な家庭があり、密に専門機関やご家族との連携を取り支援を行っていった。地域の保護者・子育て支援の取り組みとしての一時保育事業では、200 名の利用があった。地域密着を目指す園として、保育の様子をホームページ・ブログ等で、地域への情報配信を行った。

2021 年度　テラスハウス保育園園児人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合　計
4 月	4	15	20	39
5 月	4	15	20	39
6 月	7	15	20	42
7 月	7	16	20	43
8 月	8	16	20	44
9 月	13	16	19	48
10 月	13	17	18	48
11 月	15	17	18	50
12 月	15	18	18	51
1 月	17	18	19	54
2 月	17	18	19	54

3 月	18	18	19	55
平均（人）	11.5	16.5	19	47

2021 年度　テラスハウス保育園一時保育実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合　計
4 月	0	7	5	12
5 月	0	5	6	11
6 月	0	6	8	14
7 月	3	5	8	16
8 月	2	2	5	9
9 月	0	7	9	16
10 月	0	5	16	21
11 月	0	8	24	32
12 月	0	7	18	25
1 月	5	0	13	18
2 月	0	12	0	12
3 月	4	1	9	14
合計（人）	14	65	121	200

（２）　職員研修

コロナ禍の為、園内研修の充実、オンライン研修の活用を行った。年間を通じて、「育児担当制」についての勉強会を行った。園の特徴としての、ひとりひとりを大切にした「ゆるやかな育児担当制」を作り上げるため、来年度も継続していきたい。業務軽減を目指すところもあり、「ドキュメンテーション・写真の活用」についてのオンライン研修を利用して勉強会を行った。教育・保育に対する意見交換を行うことができた。定例会議前の短時間を利用しての実技研修も行った。さらに保育の質の向上へとつないでいった。

３－３　スマイリーハウス保育園

（１）保育・運営

今年度も引き続き、「一人ひとりを大切に 一人ひとりに寄り添う保育の実践」を目標に保育を行った。これまでに根強くあった“一斉での活動（生活・あそび)”という概念を少しずつ取り払い、子ども一人ひとりが家庭生活からの連続した時間のなかで、無理なく園生活が過ごせることを大切にしていく中で、子ども自らが興味関心をもった事象に、満足いくまで関わっていける「時間」や「場所」等の確保を心掛けた。全園児が乳児であることから、年度当初は個々の活動がメインであったが、年度後半には２歳児を中心に、「個」から自然な「集

団」へと移行した。

これらの保育の形は、子どもが密になって行動することがほとんどないことから、昨年来から続いているコロナウイルス感染症対策としても功を奏した。消毒をはじめとした日々の実践的な衛生管理や健康管理の徹底なども継続して行ったことにより、園から更なる感染が広まるといった事態を招くことはなかった。しかし予断を許さない状況に変わりはなく、行事の中止など保育についての情報発信や保護者との関りについては困難を極めた。今年度は、オンラインを活用した試みを多く取り入れ、保育の様子(ライブ配信)やクラス懇談会(zoom)、キッズリークラスフォトの積極配信、保育参観に代わる１年の保育の集大成とする動画配信などを行った。

家庭支援を要する保護者も複数あったが、関係機関との連携を密に図り、こまめに情報共有を行っていくことで、園児・保護者が心身共に少しでも安定して過ごしていけるよう個別支援を行っていった。

2021 年度　スマイリーハウス保育園園児人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合　計
4 月	1	5	１０	１６
5 月	2	5	9	１６
6 月	3	5	9	１７
7 月	4	5	9	１８
8 月	4	5	9	１８
9 月	4	5	9	１８
10 月	4	5	9	１８
11 月	4	5	9	１８
12 月	5	5	9	１９
1 月	6	5	9	２０
2 月	6	5	9	２０
3 月	5	5	9	１９
平均（人）	4	5	9	１８

（２）一時預かり事業

年間利用延べ人数は 75 名であった。コロナウイルス感染症の流行により、受け入れを控えた期間もあり、利用者数は増えなかった。前年度同様、利用者の多くはリピーターであり、周知が図られている状態であるとは言えないので、引き続き周知していく必要があると感じている。

2021年度　スマイリーハウス保育園一時保育実績

	0歳児	1歳児	2歳児	合　計
4月	0	0	0	0
5月	0	0	0	0
6月	0	0	1	1
7月	0	2	2	4
8月	1	1	1	3
9月	0	0	0	0
10月	9	7	0	１６
11月	１８	１０	0	２８
12月	9	7	0	１６
1月	0	7	0	7
2月	0	0	0	0
3月	0	0	0	0
合計	３７	３４	4	７５

（３）職員研修

今年度は外部で開催される研修のほとんどがオンライン形式となった。対面での学びも多いが、オンライン形式となったことで、通常であれば参加が困難な職員も受講することができ、園全体の保育の質の向上へとつなげることができた。

３－４　スプリングハウス保育園

（１）保育・運営

今年度も新型コロナと共にスタートしたが、一人ひとり丁寧に関わることを常に目標とし取り組んだ。昨年度に引き続き、衛生面には配慮しこまめな消毒や換気、一人ひとりの健康状態の把握に努めた。コロナ禍のために行事の取りやめがあったがLIVE配信や動画配信で子どもたちの様子を保護者に見ていただいたり、初めてZOOMでの保護者懇談会を実施し、園での様子や保護者同士で話をしていただく機会を設けることができた。また、キッズリーの連絡帳でも 1日の様子を写真で配信し園での様子を伝えていった。合同の行事はなくなったが、園で夏まつりごっこや運動遊び、園外保育の充実など子どもの成長に合わせながらも楽しめる保育の工夫に取り組んだ。２月には、初めて保護者に向けての講演会を計画し、保護者支援にも取り組むことができた。

地域との連携・交流に関しては、担当を決め今年度こその思いで取り組んだが、まだまだ難しい１年であった。そのような中でも引き続きごみ収集の方やお世話になっているクマバスの運転手さんにプレゼントをしたり、ニジマスつかみの体験時は、ご近所の方々におすそ分けをしたりして交流を図った。

2021 年度　スプリングハウス保育園園児人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合　計
4 月	1	2	8	11
5 月	1	2	7	10
6 月	2	2	7	11
7 月	2	2	6	10
8 月	3	2	7	12
9 月	4	3	7	14
10 月	4	3	7	14
11 月	4	4	7	15
12 月	5	4	6	15
1 月	5	4	6	15
2 月	5	4	6	15
3 月	5	4	6	15
平均（人）	3.4	3	6.7	13.1

（２）一時預かり事業

昨年度より一時預かり事業をスタートしたが、今年度は８月まで一時保育の受け入れをすることができなくて残念であった。年間延べ人数は８名。新型コロナ感染症の影響で利用される方は少なかったと共に、まだまだ事業の周知がなされていない面もみられるので次年度はしっかりと行っていきたい。

2021 年度　スプリングハウス保育園一時保育実績

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合　計
4 月				
5 月				
6 月				
7 月				
8 月				
9 月	0	0	0	0
10 月	0	0	0	0
11 月	0	1	0	1
12 月	0	0	0	0
1 月	0	0	0	0

2月	0	0	0	0
3月	7	0	0	7
合計（人）	7	1	0	8

（3）職員研修

今年度も新型コロナの影響で研修等が中止されることもあったが、オンライン研修等に積極的に取り組んだり、キャリアアップ研修に参加したり豊岡市の研修に参加したりと少ない中からも職員が積極的に参加し、個々のスキルアップに繋げた。また今年度は、「まなびの公開保育」の公開保育実施園になり子どもの姿の読み取りや学びの要因の話し合いなどを行い、保育士の資質向上に取り組むことができたのは保育士にとって大きなプラスであった。また、昨年度に引き続き毎日１５分の保育振り返りタイムを設け職員間同士の共通理解を図り、明日の保育への取りくみの充実を図った。

３－５　バンビーノハウス保育園

（1）保育・運営

２０２１年４月、定員１５名の生後２ヵ月～１歳児の乳児専門の小規模保育園として豊岡市下陰（チャイルドハウスこども園隣接地）に開園した。３月２３日に園舎の引き渡しを行い、４月１日には、０歳児３名・１歳児１０名の園児を迎えて、新年度がスタートした。

この１年間、法人・保育理念をもとに、全体的な計画・一人ひとりの育ちに応じた個別保育計画を立案し、安心・安全のもと、個々に寄り添った保育の実践に努め、一人ひとりの子どもの姿をよく見とり、発達に応じた遊びを展開できるよう、環境作りに取り組んだ。子ども達は、「じっくり」「活発に」「ゆったり」とした安心できる空間で過ごす事が出来た。

保護者対応では、一人ひとりの保護者と密にコミュニケーションをとることにより、深い信頼関係を結び、子どもの成長を保護者と共有し、子育ての楽しさを知らせていく親育てに力を注いだ。年度末の「保護者アンケート」では、「小規模ならではの保育・保護者との密な連携」について、９割近くの高評価をいただいた。

給食は、連携園であるチャイルドハウスこども園で調理をし、本園に搬入している。チャイルドハウスこども園の栄養士と連携をとり、離乳食・食物アレルギー・体調不良児等、一人ひとりの状態にあった食事提供を行う。又、食育活動に取り組んでいる。旬の食材にふれたり（新玉ねぎ、タケノコ、トウモロコシ、かぶ等)、プランターでの野菜栽培を行ったり、簡単なクッキングを行った。

連携園であるチャイルドハウスこども園と、隣接しているメリットを活かし、日常に園児交流に取り組んでいる。よって、２歳児への進級もスムーズであった。職員間も、法人として目指す保育を、合同職員会議や研修等で共通理解しながら、保育運営にあたった。

2021 年度　バンビーノハウス保育園園児人数

	0 歳児	1 歳児	合　計
4 月	3	10	13
5 月	3	10	13
6 月	3	10	13
7 月	3	10	13
8 月	4	10	14
9 月	5	10	15
10 月	6	10	16
11 月	6	10	16
12 月	6	10	16
1 月	6	10	16
2 月	6	10	16
3 月	6	10	16
平均（人）	5	10	

（２）職員研修

チャイルドハウスこども園と合同で、「園内研修年間計画」を作成した。感染症対応、救急蘇生法、不審者対応等に加え、外部のオンライン研修にも多く参加し、保育の質の向上に取り組んだ。コロナウイルス感染症の状況をみながら、「レクリエーション研修」と称し、職員間のコミュニケーションの場を設けた。勤務時間によっては、普段関わることが少ない職員同士も、コミュニケーションをとることが出来て、良い機会となった。

３－６　村雨こども園・村雨こども園愛分園・村雨こども園なぎさ分園
（幼保連携型認定こども園）

（１）　施設運営

２年目となり長期化している新型コロナウイルス感染症の現状を、どのように向き合い、対応していくのか困惑しながらの施設運営となった。

新年度に入り直ぐに「緊急事態宣言」その後「蔓延防止措置」が発令され、感染者数が増加する度に、先が見通せなく試行錯誤しながら、新型コロナウイルス感染症への対応を繰り返し行う令和３年度となった。

昨年度に培った知識とスキルを整理し、幾度となく積み重ねた「新型コロナウイルス感染症の対策マニュアル」も作成した。

ウイルスが変異する度に、マニュアル内容も修正し、常に職員に周知し、コロナ陽性者が発生したら迅速な感染防止の徹底に努め、感染が拡大しないように努めてきた。

特に、関係機関（行政・保健所・嘱託医）との連携の強化、子どもへの精神的ケア、保護者への支援と協力体制の継続依頼にも重点を置き丁寧に対応していった。

特に、神戸市の新型コロナウイルス感染症における方針は、近隣の自治体より非常に厳しく、クラスに陽性者が１名発症すれば、対象のクラス全員に登園自粛依頼を通知しなければいけないため、日々対応に追われた。

「家庭内感染から園内に持ち込むケース」「無症状で登園し持ち込むケース」「０歳児から２歳児はマスク着用が困難であり、抱っこや食事配慮等で濃厚接触にならざるを得ない職員が感染するケース」「受診するが風邪との判断で登園し持ち込むケース」等、経路が特定できず見えないウイルス感染に頭を悩ました。

また、デルタ株発生時には、身近な関係機関「保健所」の保健師業務も逼迫した為、研修を受け神戸市ルールに則り、コロナ陽性者が発症する度に、本園職員で濃厚接触者を判断しPCR検査を促し､同意書の作成と検査キッドの手配、そして検査済みキッドを回収し検査センターへ手渡す業務を２か月間担った。

保健師業務と感染対策をしながらの保育教育の継続で、日曜日や平日の超過勤務もあり、慣れない諸々の対応にも追われ疲弊困憊の状態にもなった。

けれど、子どもたちを守りながら教育保育を行い、社会活動、経済活動を止めることなく、行政と職員と一体となって、継続して新型コロナウイルスに立ち向かうことができ、地域と関係機関との今までにない強固な関係を築くこともでき、職員間の団結力も高まった。

今年度の培ってきたノウハウを糧に、新型コロナウイルス感染症に対応しながら、今後も変動していく社会情勢をしっかりと踏まえ、運営を行っていきたいと思う。

保育所実習・教育実習は、コロナ禍中で受け入れを拒む幼稚園、保育園等が多いこともあり、養成校からの依頼のご相談があった。

学生を現場実習において指導していくことも、こども園の現場での役割であると本園では認識し、通常のコロナ感染対策業務も増す一方だったが、今までと変わらず実習生を受け入れ、職員は丁寧に指導を行ってくれた。

結果、感染者数が減少時期を見計らって、保育所実習生・幼稚園教育実習生の３名の受け入れを行った。

神戸エリアのキャリアパス制度については、「緊急事態宣言時の登園自粛」や「蔓延防止措置時の家庭保育依頼」等で、保護者も新型コロナウイルス感染症への理解から家庭保育を鑑みる自粛もあり、全員が揃ってのクラス運営がままならない月が多くあり、本来の保育が儘ならなく開始する事ができなかった。

昨年度同様、自己申告書提出後の職員面談を、職員間の感染対策を施しながら人事評価者となる主幹保育教諭２名を含め面談のトライアルをし、聞き取る難しさ、伝える難しさをより一層体験することになった。

キャリアパス制度の導入は、日々の業務において必要性を感じている。目標や働きがいをもって働ける環境づくりのために、次年度はトライアルをする。

2021 年度　村雨こども園（定員１３５名）実績人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計（人）
4 月	9	21	26	33	28	28	145
5 月	9	21	28	33	28	28	147
6 月	9	21	29	33	28	28	148
7 月	9	21	29	33	28	28	148
8 月	9	21	29	33	28	28	148
9 月	9	21	29	31		28	146
10 月	9	21	29	31	28	28	146
11 月	9	21	30	31	28	28	147
12 月	9	21	30	31	28	28	147
1 月	9	21	30	31	28	28	147
2 月	9	21	30	31	28	28	147
3 月	9	21	30	31	28	28	147
平均	9	21	29	31.8	28	28	146.7

2021 年度　村雨こども園愛分園（定員１２名）実績人数

	0 歳児	1 歳児	合計（人）
4 月	6	6	12
5 月	5	6	11
6 月	6	6	12
7 月	6	6	12
8 月	6	6	12
9 月	6	6	12
10 月	6	6	12
11 月	6	6	12
12 月	6	6	12
1 月	6	6	12
2 月	6	6	12
3 月	6	6	12
平均	5.9	6	11.9

2021 年度　村雨こども園なぎさ分園（定員３０名）実績人数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計（人
4 月	2	4	3	8	5	8	30
5 月	2	4	3	8	5	8	30

6 月	3	4	3	8	5	8	31
7 月	3	4	3	8	5	8	31
8 月	3	4	3	8	5	8	31
9 月	3	4	3	8	5	8	31
10 月	3	4	3	8	5	8	31
11 月	3	4	3	8	5	8	31
12 月	3	4	3	8	5	7	30
1 月	3	4	3	8	5	7	30
2 月	3	4	3	8	5	7	30
3 月	3	4	3	8	5	7	30
平均	2.8	4	3	8	5	7.6	30.5

（２） 教育保育内容について

神戸のこども園エリアは、本園、愛分園、なぎさ分園と同敷地内に３つの建物で整備されているので、子ども達の生活・遊びのスペース三密を守りながらゆったりと遊ぶことができた。

コロナ禍でも子ども達の生活、遊びからの学びを止めないように、以前と変わらず子どもが主体的に活動できる環境を用意することができたことは、職員の教育保育に向かうモチベーションを維持することにもなった。

また、毎月の保育検討会では、子ども達の体幹や体力逓減において課題となった。「非常事態宣言」「蔓延防止措置」の発令で、家庭で過ごす時間も以前に比べ長くなり、近隣の公園に外出することにもためらいがあるご家庭も多々あった。

そこで、こども園で過ごす時間においては、特に、心と体を動かすことに力を注ぐ教育保育を行うことにした。

須磨海浜公園や須磨離宮公園、近隣の公園、園内の地上屋上園庭、乳児園庭、屋上菜園、ホール、遊歩道等の戸外環境を活用し、「のびのび元気に遊ぶ子ども」を目標に、保育教育内容を考え健康面に比重をおいた。

その結果、生活リズムの活性化や遊び込む集中力、意欲的な活動力や対話力が日常の園生活の中に、よみ返ってくる子どもの姿を感じ取れ安堵した。

感染症を防止することもとても大事なことだが、柔軟に本来の子どもの育ちに対して、察知し考えていかないといけないと痛感した。

また、行事の在り方について、新型コロナウイルス感染者数の増減を見計らいながら、見直しを行い実施した。

大きな行事では、園内が密にならないように３日間かけて、子どもの様子や教育保育内容を見てもらう「オープン保育」、須磨海浜公園多目的広場を借りて、「２歳児クラスから５歳児クラスごとの運動会参観」、「０，１歳児クラス入れ替え制のふれあい音楽参観」「徒歩での秋の遠足」「保護者１名出席の卒園式」を

実施した。
季節の行事（七夕会、クリスマス会、ひな祭り会）は、各クラス保育室での実施や、ホールでクラスを分けて実施するスタイルをとり行った。
昨年度に比べ、保護者へ子どもの成長を見て頂く機会も増え、実施してもらえることにとても感謝され、アンケートへの書き込みや労いの言葉を頂いた。
変化していく行事内容や感染対策等打合せには、かなりの労力を要し、時には、実施して大丈夫なのかと不安がつのる中、コロナウイルスは変異し続け、本当に戸惑いの連続であった。
子ども達は、頑張る姿を見てもらえたことが嬉しく誇らしく、一方、保護者は子どもの様子を見ることが出来た満足感があった。
職員は「やって良かった。」と胸をなでおろしていた。
また、保護者と子どもの成長を共有することができ、通常の行事が少しでも実施できたことに喜びを感じた。
高齢者や小中高等学校との交流を主にしている地域活動は、地域の親子の支援事業のみの実施となった。
少しずつ地域活動も再開していきたいと思う。

（３）子育て支援事業
毎週月曜日に実施している、村雨こども園の園庭開放「むらさめひろば」は、ソーシャルディスタンスを保ちながら園庭遊びを楽しみ、親子ともに、体を動かしリフレッシュの場となった。
けれど、特に今年度は緊急事態宣言、蔓延防止の発令がなされ中止する日が多々あった。
通年、好評だった「親子体験保育」「プール開放」などは、次年度の実施の方法を考えていきたいと思う。

2021 年度　むらさめひろば・なかよしひろば参加実績数

4 月	37	10 月	201
5 月	47	11 月	176
6 月	137	12 月	141
7 月	68	1 月	150
8 月	/	2 月	95
9 月	140	3 月	88
合　計(人)			1280

（４）一時保育事業
新型コロナウイルス感染防止のため、「非常事態宣言」「蔓延防止」発令中は、受け入れ人数を最小限に抑え、自粛しながらも年間通して実施した。
利用状況は、非定型保育型（就労で保育が必要）利用者が減少し、子育て不安や子育て疲れ、または精神疾患などを抱える利用者が増加した。

コロナ禍の社会情勢が反映された利用状況となり、一時保育においても、見守り把握と相談業務の専門性の比重が高くなってきた。

2021 年度　村雨こども園　一時保育利用実績人数

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計（人）
4 月	49	6	12	67
5 月	38	2	3	43
6 月	49	1	4	54
7 月	28	2	14	44
8 月	22	22	7	51
9 月	32	4	7	43
10 月	41	5	19	65
11 月	48	13	20	81
12 月	55	18	15	88
1 月	55	28	11	94
2 月	48	16	13	77
3 月	49	22	20	91
合計	514	139	145	798

（５）研修

・研修等を受けながら、新型コロナウイルス感染防止の知識やスキルを深めるため、衛生環境・衛生管理の研修に、全員が取り組んだ。

・新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）は、感染力が強く、乳幼児の感染者数の急激な増加をくい止めるために、より一層の感染対策強化を保健師の巡回を受け、現場研修をした。

・キャリアアップ研修は、全てオンラインでの受講にて、なぎさ分園の事務室環境でしっかりと受講ができた。

・園内研修においては、実践事例検討を行った。
実践した内容については、「子どもの姿」「保育教諭の関り」「子どもの育ちと学びの姿」「保育教諭の専門性」について、振り返りをしながら検討をグループごとに行い、深く保育を考えていく機会となった。

・神戸市公私合同研修で、ZOOM での公開保育が実施され参加しました。初めての試みだったが、多方面から保育を観察することができ子どもの視点を感じることができた。また、ディスカッションでは他園の普段の取り組みを聞くこともできた。

３－７　村雨ほほえみ保育園（小規模保育事業）

（１）　運営について

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置発令もあり、様々な制限や感染防止対策、家庭保育の協力依頼などの取り組

みが続いた。また、感染拡大防止の観点から、１月２２日から３月１２日までは村雨こども園での土曜日合同保育を取り止め、本園で保育を行うようにした。

園内では、遊具の配置など環境構成を工夫し、子ども同士が密になることを防ぎながら、遊びが充実できるようにした。また、机を増やし、給食や机上遊びでも間隔をとって座ることができるようにしたことで、感染予防になり、子ども達が落ち着いて取り組める環境にもなった。

職員においても、毎日健康観察チェックを行い、感染予防の自己管理に努めていたが、１月３１日より職員３名が新型コロナウイルスに感染し、感染可能対象となった園児１６名が３日間登園自粛となってしまった。その後は３月に園児１名の感染があったが、神戸市との協議の結果、登園自粛の対応は不要であった為、園の運営には影響がなかった。

災害に備えた取り組みとして、補助金を利用し、非常持出袋や非常用飲食糧品を十分に確保し、災害時の対応について職員間で見直しや確認を行った。

安全対策として、遊び場にもなる駐車場のコンクリートブロックに保護クッションを取り付け、怪我の防止につなげられるようにした。

１月に職員１名の１か月の休職があったが、クラスとして落ち着いていたこともあり、職員が協力して一人一人の子どもに寄り添う保育は継続できた。

研修に関しては、キャリアアップ研修はあまり受講できなかったが、参加可能な対面での研修はできる限り受講できるようにした。また、コロナ禍でオンラインの研修が増え受講しやすくなったこともあり、積極的に受講するようにし、保育士の質向上に努めた。

行事等の中止など計画を変更せざるを得ない状況もあったが、子ども達がくつろいで安心して過ごせる場となる保育、運営に努めた。

（２）　保育内容について

年度前半は途中入退園で園児の入れ替わりがあり、落ち着かない様子もあったが、８月以降は入れ替わりがなかったことで、保育者との信頼関係、子ども同士の関わりが充実した保育を行うことができた。また、運動遊具を新たに増やすことで、室内でも十分体を動かして遊びながら運動発達を促し、種類や数が増えたことは、活動時に密になることの回避にもつながった。

１歳児と２歳児の発達の違いを考慮し、場所やパーテーションの使用を工夫して年齢別に取り組む機会を設け、それぞれの遊びに集中・持続できるようにした。異年齢児が一緒に過ごす小規模ならではの利点も活かしながら、子どもの育ちに合った遊びの充実を図った。

保護者参加の行事については、感染拡大がみられた時期の保育参加や発表会は中止になったが、開催できる状況の時は、日程を増やす、参加人数調整をするなどの対策を取りながら、保護者に保育園での様子を知っていただく機会を少しでも設けられるよう行事を実施した。特に運動会に代わる運動遊び保育参加は、１・２歳児は普段から使用している公

園で行い、０歳児は保育園の室内と駐車場を工夫して使用する行事にしたことで、それぞれの年齢に合った取り組みができた。

発表会は中止となったが、発表会に向けて取り組んでいた様子を知りたいという保護者の要望もあったので、２歳児だけではあったが、取り組みの様子を撮影し個別に動画を見てもらう機会を設けた。卒園する２歳児親子にとっては良い機会になったようだった。

2021 年度　村雨ほほえみ保育園（定員 19 名）園児数

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	合計（人）
4 月	3	7	7	17
5 月	5	7	5	17
6 月	6	7	5	18
7 月	6	6	5	17
8 月	6	7	6	19
9 月	6	7	6	19
10 月	6	7	6	19
11 月	6	7	6	19
12 月	6	7	6	19
1 月	6	7	6	19
2 月	6	7	6	19
3 月	6	7	6	19
平均	5.7	6.9	5.8	18.4

（３）　一時保育事業について

７月までは登録はあったものの利用者がない状態が続いた。８月以降は非定型保育の利用が主だったが、第２子出産後の第１子の利用や、病院受診時の利用の要望があった。新型コロナウイルス感染防止の為、感染拡大がみられた１月からは新規の予約、受け入れを見合わせ、利用を制限しながら行った。

2021 年度　村雨ほほえみ保育園　一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計(人)
4 月	0	0	0	0
5 月	0	0	0	0
6 月	0	0	0	0
7 月	0	0	0	0
8 月	0	2	0	2
9 月	3	1	0	4
10 月	5	1	1	7

11 月	4	1	0	5
12 月	5	0	0	5
1 月	4	1	0	5
2 月	3	0	0	3
3 月	10	0	0	10
合計	34	6	1	41

３－８　松風児童館

４月５月は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令期間中は、一般来館者の受け入れをすることができなかったが、感染者数の状況に応じて環境を整え、感染症と向き合いながら安心安全に児童館を利用していただけるよう運営に努めてきた。

制限のある中でもあそび場を求める保護者も多くおり、外掲示板やパンフレットをリニューアルし広報することで、児童館でどのような活動をしているのかを知ってもらうことができ、徐々に一般来館者も増えてきた。また、おやこふらっとひろば須磨をきっかけに児童館に足を運ぶ親子も増えており、顔見知りの職員やお友だちが増え仲間づくりの場にも繋がっている。

2021 年度　松風児童館利用状況（2021 年 4 月～2022 年 3 月）

月	来館利用人員(人)								学童
	幼児	小学生				中高生	大人	合計	在籍数(人)
		1～3 年		4～6 年					
		一般	学童	一般	学童				
4	35	44	1867	24	300	2	31	2303	143
5	41	2	1271	7	230	0	40	1591	143
6	127	3	1823	9	267	0	122	2351	141
7	82	10	1643	12	226	2	77	2052	135
8	4	32	1350	22	211	0	18	1637	126
9	117	10	1343	6	215	2	123	1816	123
10	169	49	1453	29	135	4	199	2032	112
11	157	13	1352	6	160	0	152	1840	110
12	157	52	1360	14	125	5	158	1860	108
1	112	17	1097	9	108	0	110	1452	105
2	86	3	833	8	96	0	80	1105	102
3	110	13	1078	24	99	8	107	1458	100
合計	1197	248	16470	170	2172	23	1217	21497	

（1）親子館事業内容、状況報告

なかよしひろばでは曜日によって参加組数が少ない日もあったが、絵本の読み聞かせや親子のふれあいあそびなどをするせんせいとあそぼうの実施日を増やしたことで、楽しみに来館してくれる親子が増え、気軽に行ける地域のあそび場として児童館を知ってもらう機会となった。

登録制クラスのすこやかクラブでは、年度途中に入会する親子が多く、保護者同士でなかなかコミュニケーションが取れない場面もあったが、母親同士で相談しながらあそびをきめるママプログラムを通してよく話をする姿や、一緒に子どもの成長を見守る姿が見られるようになり、仲間づくりに繋がった。また、子育てに悩む保護者も多く、活動中や活動後に積極的に関わるようにし、支援を行ってきた。

2021 年度　松風児童館　親子館事業報告

<table>
<tr><th>クラブ名</th><th colspan="2">内　容</th><th>対象者</th><th>時間</th><th>料金等</th></tr>
<tr><td rowspan="3">なかよしひろば</td><td>自由遊び</td><td>大型遊具で自由遊び</td><td rowspan="4">0～就学前
乳幼児親子</td><td>毎週月～水
9:30～12:30</td><td rowspan="4">無料
自由参加</td></tr>
<tr><td>せんせいとあそぼ</td><td>体操やふれあい遊び
絵本の読み聞かせ等</td><td>毎週月～水
11:00～11:20</td></tr>
<tr><td>おべんとうひろば</td><td>持参したお弁当を食べる</td><td>毎週水
11:30～12:30</td></tr>
<tr><td>むらさめひろば</td><td colspan="2">村雨こども園園庭で自由遊び</td><td>毎週月
9:30～12:30</td></tr>
<tr><td>すこやかクラブ</td><td colspan="2">体操、親子のふれあい遊びや季節の遊び</td><td>1 歳半～
4 歳児親子</td><td>毎週木
10:30～11:30</td><td>年会費
￥3，000
登録制</td></tr>
</table>

※感染拡大防止のためおべんとうひろばは中止とした

2021 年度登録制クラス　すこやかクラブ　登録組数

月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
登録組数	4	7	9	10	10	10	11	11	11	11	11

2021 年度　なかよしひろば　参加組数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
参加組数	19　組 37 名	23 組 47 名	67 組 137 名	32 組 68 名	68 組 140 名	98 組 201 名	70 組 176 名	69 組 141 名	73 組 150 名	49 組 95 名	63 組 132 名

（2）児童健全育成事業内容・状況について

新型コロナウイルス感染症と向き合いながら感染者数の状況に応じて中止したり、定員数を調整、内容を工夫したりし児童館行事を実施してきた。

緊急事態宣言やまん延防止重点措置期間などもあり、感染症を気にする方も多く、一般来館者の行事への参加率が低かった。地域の子どもたちが安心して参加しやすいようハロウィンパーティーやクリスマス会などは土曜日に３部制にするなど工夫したことで、たくさんの子どもたちに楽しんでもらうことができ、児童館事業を知ってもらう機会となった。

また、親子イベントについては、ＨＰから参加申し込みができるようにしたことで、気軽に申し込みすることができ、イベントをきっかけに児童館を知り利用する親子も増えた。

2021 年度　児童健全育成事業報告

月	事業名	参加者数	備考
4	鬼ごっこデー	13 名	
	あやとりにチャレンジ	19 名	
	５月のカレンダー作り	22 名	
5	６月のカレンダー作り	16 名	
	八方手裏剣を作って遊ぼう	17 名	
6	スポーツチャンバラにチャレンジ	18 名	
	プレゼント（ペン立て）工作	15 名	
	ドッジボールデー	15 名	
	７月のカレンダーづくり	15 名	
	親子であそぼう	7 組 14 名	
7	七夕工作	12 名	
	新聞紙で遊ぼう	11 名	
	けん玉にチャレンジ		
	８月のカレンダー作り	13 名	
	親子エアロビクス	9 組 18 名	
8	廃材で工作デー	11 名	
	ボーリングにチャレンジ		
	９月のカレンダー作り	11 名	
9	ゴム鉄砲で射的にチャレンジ	15 名	
	１０月のカレンダー作り		
	ミニ運動会	14 名	
	ベビーマッサージ	2 組 4 名	
	すとろべりーじゃむさんとあそぼう	6 組 12 名	
10	ハロウィン工作	14 名/14 名/6 名	3 回実施
	つみきパズルにチャレンジ	15 名	
	みんなであそぼう（ハンカチ落とし）	15 名	
	１１月のカレンダー作り	15 名	
	ハロウィンパーティー（小学生）	14 名/14 名/14 名	3 回実施
	ハロウィンパーティー（親子）	8 組 17 名/9 組 18 名	2 回実施
11	あやとりにチャレンジ	11 名	
	ふうせんあそび	14 名	
	１２月のカレンダー作り	19 名	
	自然物でフォトスタンドづくり	15 名	
	ふうせんあそび	7 組 14 名	
12	クリスマス工作	12 名/9 名/7 名	3 回実施
	クリスマス会(小学生)	13 名/14 名/13 名	3 回実施

	けん玉にチャレンジ		
	１月カレンダー作り		
	クリーン作戦	27 名 / 27 名	2 回実施
	クリスマス会（親子）	14 組 30 名	
1	プレゼント（和紙のしおり）工作	9 名/15 名/11 名	3 回実施
	昔あそびにチャレンジ		
	２月のカレンダー作り	9 名	
3	つみきパズルにチャレンジ	10 名	
	４月のカレンダーづくり	8 名	

（３）松風放課後児童クラブ（学童保育）事業内容、状況報告

例年に比べ高学年が多く在籍していたことや､新型コロナウイルス感染症の影響で在宅勤務の保護者が増えたこともあり、家庭で過ごすことのできる児童が増え、年度途中での退会児童が多かった。

児童館行事では様々な体験ができるようなプログラムを職員が計画し実施してきたが、学童保育ではホールを使って広い場所で子どもたちが主体となってあそぶことのできる時間を作った。一人一人のやりたいあそびや発想を引き出し、みんなで楽しむにはどうしたらいいのかなどを一緒に考え、友だち同士でコミュニケーションを取ることができるよう支援に努めた。日頃から感染症対策などでストレスを抱える子どもも多くいたので、様々な道具を使ったり、体をたくさん動かしたりダイナミックにあそぶことができ、子どもたちの発散の場にも繋がっていた。

ＩＣＴの活用においては、出欠や入退出管理の他にも、お誕生会のおやつのメニューをアンケート機能で希望調査をするなど様々な機能を使い、保護者との連絡など効率化を図ることができた。

本館　2021 年度学校別・学年別在籍児数

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	32	21	14	13	5	0	85
若　宮	10	1	5	2	0	0	18
合計（人）	42	22	19	15	5	0	103

（2021 年 4 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	26	17	9	6	0	0	58
若　宮	10	0	3	2	0	0	15
合計（人）	36	17	12	8	0	0	73

（2021 年 10 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	23	14	8	6	0	0	51
若　宮	10	0	3	2	0	0	15
合計（人）	33	14	11	8	0	0	66

（2022 年 3 月 1 日）

分館　2021 年度学校別・学年別在籍児数

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	14	1	8	3	0	0	26
北須磨	3	3	7	0	0	0	13
マリスト国際	0	1	0	0	0	0	1
合計（人）	17	5	15	3	0	0	40

（2021 年 4 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	14	1	8	3	0	0	26
北須磨	3	3	6	0	0	0	12
マリスト国際	0	1	0	0	0	0	1
合計（人）	17	5	14	3	0	0	39

（2021 年 10 月 1 日）

小学校名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計（人）
西須磨	14	1	7	0	0	0	22
北須磨	3	3	5	0	0	0	11
マリスト国際	0	1	0	0	0	0	1
合計（人）	17	5	12	0	0	0	34

（2022 年 3 月 1 日）

2021 年度　松風放課後児童クラブ　放課後児童健全育成事業報告

月	行　事	月	行　事
4	・入所式・進級式 ・火災避難訓練 ・防犯防災保健指導 「児童館での安全な過ごし方」 ・４月のお誕生会	10	・学童入会説明会 ・ホールあそび ・防犯防災保健指導 「帰り道の注意(こども 110 番)」 ・１０月のお誕生会
5	・学童交流外あそび（中止） ・防犯防災保健指導 「帰り道の注意（いかのおすし）」 ・５月のお誕生会	11	・在籍児童継続調査 ・ホールあそび ・防犯防災保健指導 「感染症予防について」 ・１１月のお誕生会
6	・本館・分館交流外あそび（中止） ・保護者会（資料配布） ・ホールあそび ・防犯防災保健指導 「警報や注意報がでたとき」 ・６月のお誕生会	12	・ホールあそび ・防犯防災保健指導 「知らない人に声をかけられたら」 ・１２月のお誕生会
7	・個別懇談会	1	・こままわし

	・運営委員会（資料配布） ・防犯防災保健指導 「夏休みの過ごし方」 ・７月のお誕生会		・防犯防災保健指導 「地震がおこったら」 ・１月のお誕生会
8	・須磨水族園へ遠足（中止） ・防犯防災保健指導 「交通ルールの確認」 ・８月のお誕生会	2	・紙飛行機あそぼう ・敬老交流会（中止） ・個人面談 ・防犯防災保健指導 「感染症予防について」 ・２月のお誕生会
9	・ホールあそび ・防犯防災保健指導 「もしも不審者が児童館にきたら」 ・９月のお誕生会	3	・段ボール迷路づくり ・新年度準備 ・防犯防災保健指導 「家に帰ったら気をつけること」 「感染拡大防止のために」 ・３月のお誕生会

３－９　おやこふらっとひろば須磨（神戸市からの運営委託事業）

新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発令中はひろばを休所、まん延防止措置期間中は来所組数の多い土曜日、第３日曜日を休所とし、感染症拡大防止に努めた。また、感染者数の状況に応じて、お弁当やおやつを食べることのできるすまカフェエリアの利用を控えていただいたり、ランチタイムは予約制にしたりし、利用人数を制限するなどの対策を取って安心安全に利用していただけるよう努めている。イベントや講座においては中止とするものもあったが、混雑が予想されるイベントは２部制にし、イベント内容を密にならないあそびにするなど工夫してできる限りたくさんの親子に楽しんでもらえるよう実施した。

受付では感染症対策として連絡先を記入していただいていたが、６月より連絡先を登録していただくよう受付方法を変更したことで、受付時間の短縮につながり気軽に来所してもらえるようになった。また、ＨＰや友人の紹介などでひろばを知り、須磨区外や神戸市外から来られる親子も増えている。はじめて子育てをする保護者は、ひろばにあそびに行きたいと思いながらも、異年齢の親子がたくさんいるひろばに入ることが難しいと感じ、少人数での支援を求めている方もいたので、地域子育て応援プラザと連携し、少人数から少しずつ集団の輪に入ることができるよう支援を行ってきた。子育て中の親子が気軽にふらっと立ち寄り、ゆっくりくつろげる場所を目指し、親子に寄り添いながら地域の親子の居場所となるよう努めている。

2021年度　おやこふらっとひろば須磨利用状況（2021年4月～2022年3月）

月	来所人数						来所組数			
	0歳	1歳	2歳	3歳以上	大人	合計	区内	区外	市外	合計
4月	168	316	127	133	705	1449	527	99	3	629
5月	100	146	64	39	331	680	250	56	2	308
6月	286	352	159	137	890	1824	671	143	6	820
7月	318	398	204	200	1091	2211	788	140	10	938
8月	230	297	160	180	825	1692	594	110	14	718
9月	260	348	174	179	913	1874	689	144	7	840
10月	308	415	223	218	1120	2284	829	177	4	1010
11月	308	415	254	214	1115	2306	835	165	3	1003
12月	244	470	242	233	1116	2305	811	186	8	1005
1月	177	354	169	181	813	1694	594	137	5	736
2月	125	297	122	183	641	1368	460	131	2	593
3月	256	430	186	264	1021	2157	742	172	6	920
合計	2780	4238	2084	2161	10581	21844	7790	1660	70	9520

１．各機関との連携

須磨区役所こども家庭支援課と連携しながらイベントや講座の実施や、子育てに悩みを抱える保護者の相談、支援を行ってきた。区役所との連携においては、保育サービスコーディネーターに来ていただき、幼稚園や保育園の選びかたや申し込み方などの悩みを持っている保護者の支援を行った。また、地域子育て応援プラザと連携し７ヶ月までの親子を対象に、親同士の交流の場を作り、子育てへの不安や悩みの軽減を目的に支援を行った。

実施月日	行事名		行事内容	参加組数
8月4日	幼稚園・保育園についての相談会	須磨区役所 こども家庭支援課	幼稚園や保育園の選び方や申し込みについての情報提供、相談会	4
8月24日				5
9月13日 17日	ほっとタイム	地域子育て応援プラザ	子どもの発達についての講座や親子あそび、手作りおもちゃ等の紹介	4
11月22日 12月　6日	ほっとタイム			4

２．イベント・講座の実施

季節を感じるあそびや、子育てに関する講座等を月に１回実施した。よく来所される親子はもちろん、初めて来所される親子などたくさんの方に気軽に参加していただけるよう、イベントの周知期間を長くとったり、申込方法を抽選にしたりと工夫し実施した。また、イベントや講座への参加がきっかけでひろばを知り来所される方も増えており、顔見知りの親子が増え仲間づくりにも繋がっている。

2020 年度　イベント実施報告

実施月日	行事名	行事内容	参加者	
			大人	子
4 月 27 日	ふうせんあそび	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
5 月 25 日	新聞紙であそぼう			
6 月 22 日	楽器であそぼう	音楽に合わせダンスや楽器の演奏をして楽しむ	6	7
7 月 7 日	七夕あそび	パネルシアターや簡単工作	13	13
8 月 16 日	夏まつり	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
9 月 21 日	秋まつり	簡単工作やあそびブースで秋祭りの雰囲気を楽しむ	15	16
10 月 18 日	ハロウィンパーティー	ダンスやあそびブースでハロウィンの雰囲気を楽しむ	16	17
11 月 30 日	布あそび	様々な素材や大きさの布に触れてあそぶ	13	15
12 月 18 日	クリスマス会（２部制）	パネルシアターやダンスをしてクリスマスの雰囲気を楽しむ	20 19	18 15
1 月 27 日	お正月あそび	昔あそびや簡単工作	15	16
2 月 3 日	節分あそび	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
3 月 19 日	パパイベント忍者ごっこ			

2020 年度　講座実施報告

実施月日	行事名	行事内容	参加者	
			大人	子
4 月 21 日	ベビーマッサージ	親子でコミュニケーションをとりながらマッサージをする	11	10
5 月 18 日	親子エアロビクス	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
6 月 11 日	歯の健康教室			
7 月 15 日	ベビーマッサージ	親子でコミュニケーションをとりながらマッサージをする	8	6
8 月 25 日	抱っこでおはなし	絵本の選びかたやおすすめ絵本の紹介	7	9
9 月 28 日	食育講座	食事についての話や簡単レシピ紹介	5	5
10 月 29 日	わらべうたで子育て講座	親子でふれあいながらコミュニケーションのとり方などを学ぶ	9	9
11 月 16 日	離乳食講座	離乳食の作り方や食べ方アレルギーについて学ぶ	5	5
12 月 15 日	親子でリトミック	楽器の音色や音楽にふれあって表現力を育む	9	9
1 月 15 日	防災講座	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止		
2 月 21 日	親子エアロビクス			
3 月 16 日	わらべうたで子育て講座	親子でふれあいながらコミュニケーションのとり方などを学ぶ	10	9

その他

	身体測定	せんせいとあそぼう
実施回数	年 20 回	年 47 回

３．子育て相談

来所やメール、電話での多様な方法で相談業務を行っている。せんせいとあそぼうやイベント後に職員と気軽に関わり、世間話をする中で相談される保護者が多かった。また身体測定では個別に測定しているので、ゆっくり落

ち着いて発達・発育について相談される方が増えてきた。より専門的に話を聞いてほしい保護者には、区役所や関連機関と情報共有しながら支援に努めている。

相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談	4	2	7	2	2	6	7	3	4	6	4	8	55
関連機関へ連絡	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3

４．ボランティアの受け入れ

神戸須磨ローターアクトクラブより地域の親子に喜んでもらえるようなイベントを計画したいとボランティアの希望があり、イベントを実施していただいた。

実施月日	行事名	内容	参加組数
6月18日	カレンダーづくり（２部制）	顔写真つきのカレンダーづくり	6 6

３－１０　諏訪ひかり保育園

（1）保育・運営

諏訪ひかり保育園は９年目を迎え、引き続き地域からの信頼と期待に応えるため、当保育園ならではの地域に密着した保育の実践に取り組み、新たな体制のもと、保育の質の一層の向上と教育の充実に努めた。

保育の３本柱「食育・運動・異年齢保育」に加え、外部講師によるリトミックも２年目を迎え、音楽による刺激を受けることにより、こども達一人ひとりの集中力と共に自発的な行動・表現への育ちにも安定が見られた。

２０２１年度園児は９０名でスタートした。
さいたま保育園との連携園としての動きが始まり、今年度から４名の園児が３歳児クラスへと入園してきた。その他にも小規模保育園から６名の園児が入園してきてそれぞれの習慣の違いからこども達も保護者も園生活に慣れるまで時間がかかり、外部から見てもわかりやすいシステムに見直しをかけた。

With コロナ生活も２年目に入り、感染者の人数も断然多くなった。
和光市からの自粛保育要請により一部自粛する園児はいたが、ほとんどの方は陽性者が出ようと濃厚接触者にならない限り登園していた。園児に陽性者が出るが保健所による濃厚接触者の認定に時間がかかり１月１３日に休園となるが、翌日１４日より開園となった。その日以降は保健所が業務ひっ迫で濃厚接触者を負うことができず、市との協議で濃厚接触者を判断することとなり、感染対策を徹底することで　休園を避けることができた。

職員間の情報共有に関しては、職員会議をはじめとする各種会議や乳児幼児リーダーによる定例打ち合わせなどを定期的に開催するほか、緊急性のある場合などは必要に応じ、連絡会・検討会などを適宜開催し、子どもや保護者の情報、危機管理情報などの共有や、連絡・指示命令の即時伝達など、可能な限りダイレクトでタイムリーな情報周知の徹底を図った。

特にケア会議や園内研修においては、小人数グループでのディスカッションにより、一人ひとりの思いを話し、相手の思いに共鳴して保育への思いをひとつにできるよう、乳児・幼児各リーダーを中心に主体的に取り組んだ。

「さいたま保育園」との施設間連携においては、コロナウイルス感染症対策による埼玉病院の意向により、保育においては一緒に活動することは難しかった。職員間においてはコロナウイルス感染症対策のもと、お互いにどちらの園に欠勤が出てもフォローが出来るよう協力体制をとった。

行事についても、コロナウイルス感染症対策の為、全てにおいて中止、縮小となり運動会、発表会はひとクラスずつの入れ替え制で行った。
地域交流も中止となり、近隣の施設や小学校との交流も行う事が出来なかったが、こども達はそれぞれに行事を楽しみ新たな成長を見せてくれた。

保育の充実、保育の質の向上、新たな事業展開を図るなど、いずれにしても重要ポイントは、職員の人材育成、職員のスキルアップ、保育を振り返り新しいチェレンジに意欲を持つ等「人」の問題である。園の中心となる人材を育てていきたい。

2021 年度　諏訪ひかり保育園園児数

月	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計(人)
4 月	6	12	12	24	18	18	90
5 月	6	12	12	25	18	18	91
6 月	6	12	12	25	18	18	91
7 月	6	12	12	25	18	18	91
8 月	6	12	12	25	18	18	91
9 月	6	12	12	25	18	18	91
10 月	6	12	12	25	18	18	91
11 月	6	12	12	24	18	18	90
12 月	6	12	12	24	18	18	90
1 月	6	12	12	24	18	18	90
2 月	6	12	12	24	18	18	90
3 月	6	11	12	24	18	18	90
平均	6	12	12	24	18	18	90

（2）病児・病後児保育室「やわら」

新型コロナウイルス感染症デルタ株の流行とともに小児への感染が広がり、保育園における自粛要請や休園になる園が多く見られた。こどもが体調不良の際に家庭保育をする保護者が増え、感染予防の観点から利用も控えられることにより利用者数も伸びなかった。医療機関における検査が徐々に整い始めているため、感染状況を確認しながら病児保育を必要としている方に、安全により多くの受け入れができるよう努めていきたい。

2021 年度　病児・病後児保育室「やわら」利用人数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
人数	0	0	7	0	0	0
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
人数	0	2	0	0	0	7
合計	16 人					

（３）一時預かり保育

一時預かり保育に関しても、新型コロナウイルス感染症の拡大により、集団生活を避けられたり、保護者の在宅勤務の増加につれ利用数につながらなかった。

2021 年度　諏訪ひかり保育園　一時保育利用状況

	非定型保育	緊急保育	リフレッシュ保育	合計（人）
4 月				
5 月				
6 月				
7 月		1	1	2
8 月			2	2
9 月			1	1
10 月	2		1	3
11 月				
12 月				
1 月				
2 月	9			9
3 月	12			12
合計	23	1	5	29

（４）職員研修

キャリアアップ研修を中心に、一人ひとりの専門性に向けた研修に取り組むように努めた。人材育成に関しては、園内研修を充実させるとともに、オンライン研修によるグループワークを取り入れ、より一人ひとりの職員が自分の考えを話し、ディスカッションを通して柔軟に知識を取り入れ、実務につながるように取り組んだ。

コロナ禍で外部講師を招くことも難しく、園児が療育で通っている発達支援センターの先生に講師をお願いして園内研修を行ったり、職員が講習を受けて体操指導の資格を取得しこども達や職員への指導に努めた。

また専門性を磨くために、リモートによる外部研修にも積極的に参加し、

それぞれの課題を捉え研修に努めた。リモート研修によりさらに広範囲で日程など気にせずそれぞれの受けたい研修に参加するなど、職員もリモート自体に慣れてきている。

４　公益事業

４－１　放課後児童クラブキッズガーデン

２０２１年度は、毎日コース６１名・個性育成コース８名・夏休み利用予定７２名でのスタートとなった。コロナ対策を行いながら、実施可能な活動を工夫し、子ども達の健全な心身の発達に寄り添う事を重視した。特に、日常生活の乱れや、コミュニケーション不足による見えないストレスが溜まり、アンガーマネジメントを必要とする児童も見受けられた。このような問題は、今後もあり得る為、今まで以上に一人ひとりの変化を注視し、指導員と保護者が連携を図り、適切な関わりを持って取り組む必要があると考える。また、入園希望児童数の増加により、２０２２年度は毎日コース８０名見込みとなる。その為、指導員の応用力が必須と考え、研究会等に積極的に参加し、スキルの向上に努めたい。

2021 年度　キッズガーデン在籍、利用者数　　（人）

	毎日コース	個性育成コース	一日預かり・一時利用
4 月	61	8	11
5 月	61	8	1
6 月	61	8	1
7 月	61	8	2
夏休み	61	8	12
9 月	61	8	0
10 月	61	8	0
11 月	60	8	1
12 月	60	8	3
冬休み	60	8	6
1 月	57	8	4
2 月	57	8	1
3 月	57	8	6
平均	59	8	4

2021 年度行事報告

4 月	はじめまして会
5 月	園内レクリエーション
6 月	園内活動
7 月	円山川プール
8 月	算数教室・グループ活動・夏祭り
9 月	園内活動

10 月	ハロウィン制作発表
11 月	植村直己スポーツ公園
12 月	クリスマス会
1 月	運動遊び
2 月	園庭雪遊び
3 月	人形劇「３匹のこぶた」

４－２　さいたま保育園

２０２１年度コロナ禍ということもあり埼玉病院との連携を図りコロナ対策を行い保護者の信頼を得て１年間保育を行ってきた。他園は休園することも多かったがさいたま保育園では病院と協力を行い休園することもなく保育を継続しコロナ対策の緊急一時保育も行い医療従事者の雇用の確保の一助を担った。

来年度に向けては園長、主任の交代となり新たな気持ちで保育運営を行っていく。

2021 年度　さいたま保育園園児数

月	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計(人)
4 月	3	24	30	8	5	5	75
5 月	3	24	30	8	5	5	75
6 月	6	23	29	8	5	5	78
7 月	6	24	30	8	5	5	78
8 月	6	25	30	8	5	5	79
9 月	7	26	29	8	4	5	79
10 月	7	26	30	8	4	5	80
11 月	8	26	30	8	4	5	81
12 月	9	26	30	8	4	5	82
1 月	9	26	30	8	4	5	82
2 月	8	25	29	8	4	5	79
3 月	8	25	29	8	4	5	79
平均	7	25	29	8	4	5	79

４－３　つくしんぼ保育所

（1）保育・運営

コロナ禍も３年目に入り、保育内容、行事の行い方も試行錯誤の結果、ある程度の方向性が見えてきたように思う。安全かつこども主体の保育を心がけ、保育を行ってきた。行事に関しても、保護者の参加が出来ないものに関しては、動画配信を行い、保育の見える化に努めた。

年度末頃から、園児・保護者・職員にもコロナ感染者が出たが、病院の指示を仰ぎ、PCR 検査やクラス閉鎖等を行うことになったが、保護者の協力を頂き、

混乱する事なく保育を行うことが出来た。

職員配置にも余裕があり、事務仕事等も勤務時間内に行うことができ、残業も殆ど無かった。しかし、土曜日保育が殆どなく、指定休のまかない方に苦労する部分があり、今後の課題になっている。

また、幼児の人数が減少傾向にあり、来年度途中で３歳児が０名になることが予想され、園児確保も課題である。

職員のスキルアップの為の研修には、皆、積極的に参加し、知識を深めていった。今後は、フィードバックをより徹底することにより、更なるスキルアップに努めていきたい。

来年度は、「コロナと共に保育」をスローガンにより良い保育を心がけていきたいと思う。

2021 年度　つくしんぼ保育所園児数

月	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計(人)
4 月	3	6	5	6	6	3	29
5 月	3	7	7	6	6	3	32
6 月	4	7	7	6	6	3	33
7 月	4	7	7	6	6	3	33
8 月	7	8	7	6	6	3	37
9 月	7	8	7	6	6	3	37
10 月	7	7	7	6	6	3	36
11 月	6	7	7	6	6	3	35
12 月	6	7	7	6	6	3	35
1 月	6	8	7	6	6	3	36
2 月	6	8	7	6	6	3	36
3 月	11	8	7	6	6	3	41
平均	6	7	7	6	6	3	35

（２）研修

・「表現活動を楽しむための制作遊びとは」（オンライン研修）

・千葉県保育のつどい　「子どもの言葉と心の育ち」
（オンライン研修）　「コロナ禍での子どもたちの体と心はどうなっている？　どうする！」

・「インクルーシブ保育の実現に向けて～特性の理解と支援の進め方～」
（オンライン研修）

・聖徳夏期保育大学研修　「未来を見据えた乳児保育の可能性
～将来の子ども達に必要な力とは～」
「子どものやる気を育む環境
～心理学の観点から再考し、深める～」

・千葉県保育士キャリアアップ研修　　「乳児保育」
「障害児保育」
「保護者支援・子育て支援」
・グローバリーキッズ研修　「保育の姿勢」
（オンライン研修）　「保育者向けマナー」
「施設長向け」
・コンプライアンス研修

5　法人としての主な報告と今後の課題

５－１　法人・園運営改善について

① 理事会を８回開催し、さまざまな課題に関して協議を行うと共に、円滑な経営、運営に努めている。
② 評議員会を２回開催し、さまざまな諮問に対して審議し、円滑な経営、運営に努めている。
③ 理事会、評議員会に関しての役割について明確化し、取り組んでいる。
④ 法人本部機能を強化し、法人と施設の円滑な連携について、推進及び改善に努めている。
⑤ 保育園の定員超過に対して、各地域の状況、調査・検討を加え、新設園、分園を設置するなど具体的な取り組みを行った。
⑥ コンプライアンス委員会を設置し、法人内の取り組みの確認を行った。職員研修を行い、周知に努めた。
⑦ 幼保連携型認定こども園に対する取組み、保育指針の改定に伴い、保育課程を作成し、年、月の指導計画を継続して検討し、改善を加えている。
⑧ 総合福祉研究会などとの連携により、会計システムの円滑な処理、整備を行っている。
⑨ 社会保険労務士など専門家と協議し、各施設に合致した就業規則、給与規定など職員の処遇などを制定し、実行すると共に、人事考課など人事システムに関しての検討を行った。
⑩ キャリアパスに合致した体制作り、諸規定整備に向けた検討を行い、施設長へ具体案の提示を行った。２０２０年度中に神戸地区においてプレ実施し、２０２２年４月の本格実施を目指した取り組みを行うこととしたい。
⑪ 職員資質向上のための研修や実践を行った。（オンライン活用）
⑫ 苦情解決システムの強化を図り、「保護者対応及び職員ケアに関する指針」を定め、一層の円滑化と活用を行う。
⑬ 専門家の支援体制を活用すると共に、公認会計士による外部監査を行い、経営改善に努める。
⑭ 第三者評価の受審を目指し、各種のマニュアルを整備、改善に努め、実践に努めている。
⑮ 子どもの育ちを客観的に把握するためのシステム、体制整備に努めている。
⑯ 平成２９年４月に開始された社会福祉法人改革に伴う諸準備を進め、行

政や社会福祉協議会、各種専門セミナーに積極的に参加すると共に、専門家の助言を受けながら、諸手続きを行い、必要に応じて改善に努めている。

⑰ 東京事務所を設置し、首都圏の運営について、円滑化を推進した。

⑱ 不正アクセルへの対策を講じ、改善に努めると共に研修等を強化した。

５－２　日常業務関係

（１）防災・危機管理体制の充実について

① 防災マニュアルを整備し、訓練に生かすと共に常に見直し、改善に努めている。

② 様々なケース(内容、時間、場所)を想定しての避難訓練の充実を行う。

③ 危機管理体制の一層の整備を行う。

④ メールの一斉配信など、個人情報保護を鑑みつつ、緊急時の保護者との連絡体制の整備を行い、円滑な連携システムが整い、円滑な活用となっている。

⑤ 救急救命の講習を継続して実施すると共に、AED の使用法など継続した研修を行い、命を守る職場環境整備になお一層努める。

⑥ 新型コロナウイルス感染予防対策について諸施策を整備した。

（２）園務・経理の効率化

① ネットワークシステムを構築し、情報共有や情報保護に取り組み、平成 29 年に本格稼動したが、継続的な見直しを行い、業務改善に努めることとしたい。

② 経理事務に関しては、施設との連携の円滑化が推進されると共に、ミスの最小化に向けた取り組みを行い、ミス０を目指した体制を構築しているが、数件のミスがあり、更なる改善が必要である。

③ LAN システムを活用すると共に、パソコン等を拡充し、業務効率化を推進し、一層の充実を図っている。

④ 保護者、職員等とのメール配信、連絡など活用方法をなお一層工夫し、相談業務等への充実、活用を図る。
各施設で、保育支援システム キッズリーやコドモンの導入によりタブレット端末を活用した取り組みを行っている。

⑤ 個人情報保護を念頭に、データ管理の整備を行い、ペーパレス化を一層推進している。

⑥ 経理システム、給与計算、栄養計算など関係するソフトを継続して更新し、一層の業務効率化を進める。

⑦ 月案・週案など日常業務について、コンピュータ処理化を図り、円滑な運用を行なっている。豊岡拠点ではキッズリーの活用により、業務円滑化を推進している。

⑧ ホームページをリニューアルすると共に、職員研修を行って、職員でも対応できるような体制整備を進めている。

⑨ ウェブ環境のなお一層の充実を図っている。

（３）各種研修の実施

① オンラインを活用した研修を推進した。
② 保育内容充実に関する研修について、積極的に参加した。
③ 情報共有に関する勉強、取組みを積極的に行った。
④ 法人として、メンタルヘルスケア研修を継続して行った。
⑤ 保･幼･小連携など、地域の研修に積極的に参加した。
⑥ 運動遊びなどの体育の研修に積極的に参加した。
⑦ 他の保育園、幼稚園、児童館等の施設見学、教育内容、保育内容の研修に努めた。
⑧ 保育関係団体主催の研究大会、セミナー等へ積極的に参加し、フィードバックに努めた。
⑨ 保育制度改革に伴う、各種セミナー、勉強会に積極的に参加した。
⑩ 社会人としての常識、マナーなど社会性を身につける研修を積極的に取り入れた。
⑪ パソコン活用を推進し、IT 研修を積極的に行い、レベルの均一化と共に高度化、専門化に向けた研修を行なっている(ホームページ、メール、インターネットの活用、業務効率化)。
⑫ 園児に関する基本データを活用し、保育の実践に役立てている(保育支援システムの導入と活用)。
⑬ 第三者評価を受審するための勉強会、フィードバック研修などに積極的に参加し、整備に努めている。
⑭ 社会福祉法人改革に伴う、各種の勉強会、研修に参加し、具体的対応を行った。
⑮ 観劇などを推進し感性を磨いた。
⑯ コンプライアンス研修を実施し、周知に努めた。
⑰ 各エリアにおいて、新採用職員研修を実施した。

（４）ホームページ・各種連絡について

① ホームページ等の定時更新を行うための体制整備を行っている。
② 園だより、給食だより、クラスだよりなど、定期的なお便りの充実を行い、配布を行っている。
③ 園行事等に関して、受付場所に PC・テレビを配置し、情報配信し、高い評価を受けている（諏訪ひかり保育園)。
④ メール通信を活用し、行事予定のお知らせ、欠席者の報告や伝言について、迅速かつ正確に行っている。
⑤ 個人情報保護や育児相談の観点から、なお一層メールを活用した連絡網を確立し、子育て支援に役立てている。
⑥ 法人と施設の連絡において、連携ミス等の課題について、改善に努めたい。
⑦ メールアドレス・パスワードなどセキュリティの充実、システム開発に取

り組んでいる。

（５）受付業務

① 電話応対について、個人名呼名が定着し、高い評価を受けている。

② コミュニケーション能力を向上させ、臨機応変、即時の対応については、今後一層研修に努め、情報共有化などを推進している。

③ メール・ＷＥＢの活用など、受付業務、連絡業務の改善を行っている。

（６）食育の推進（各施設共通の課題として）

① 一汁三菜などメニューの抜本的な見直しを行い、改善に努めている。

② チャイルド農園での野菜の栽培などを活用した実践的な食育活動の展開を行い、一定の成果をあげている。村雨こども園でも同様に、屋上園庭において、菜園を設け、食育の一助になっている。

③ 栄養士を中心に保育士と連携し、年間食育計画を作成し、食育についての研究、研修活動を積極的に行った。

④ 園児の個別のアレルギーの聞き取りを行うなど、離乳食、アレルギー除去食、病児食など献立、食材など一層の工夫を加え、更なる充実を図っている。

⑤「お料理室たより」などを通じて、食育指導、栄養指導、健康面での啓発活動に取り組んでいる。

⑥ 食指導において、家庭との連携が課題となり、保護者指導などを行う必要がある。

⑦ 毎日、献立サンプルの展示を行っている。

⑧ 健康増進について啓発活動を行い、実践する。

６　新規事業

（１）豊岡拠点

① チャイルドハウスこども園隣地において、駐車場確保

② 新規事業検討

（２）阪神拠点

① 各施設環境整備

② 新規事業検討

（３）首都圏拠点

① 諏訪ひかり保育園のこども園移行に向けた取り組み

② さいたま保育園定員減少への取り組み

③東京都新園への対応

④　新規事業検討

（４）２０２２年度重点事業

① 東京都における認可保育園開園に向けた調査及び具体的取組み
（令和６年度開園含む）

② 放課後児童クラブ・複合型施設及び児童館への取組み（豊岡）
③ 就労支援・就労移行支援事業への取組み（豊岡・神戸）
④ 多地域多機能多施設への取組み
⑤ 「ピタッとカフェ」などワンストップ事業構築調査
⑥ その他、アンテナを高くして対応

まとめにかえて

２０２１年度も、コロナで始まりコロナ対応に重きをおいた対応となりました。
after コロナ、with コロナへの対応が急務となり、園児、保護者はもとより、職員の健康管理に配慮し、一人ひとりを大切にする姿勢を保ちながら、保育・教育事業の変化を如何にとらえて対応していくのか、具体的な方策を検討し、具体化することが重要な時期となりました。

保育・教育事業も、サンタ（多施設、多機能、多地域）の実現に向けたネットワークの強化は大きな課題となっていると共に、地域に密着した活動展開が重要になってきている。
少子高齢時代に即した新規事業についても本格的な検討が必要となり、ヒアリング、意見交換を開始し、具体化を進めていくこととしたい。

法人と施設の基盤強化、PDCA サイクルの重視、そして何より一人ひとりを大切に、積極的な取り組みを推進することとしたい。

職員がやりがいと働き甲斐を持ち、園児、保護者をはじめ地域に必要で、愛されるコミュニティを目指した取り組みを進めることとしたい。